震災で多数の店舗が倒壊した本町筋商店街を歩く参加者たち＝11日午前、神戸市長田区（彦野公太朗撮影）

8年ぶりｉウォーク

震災から14年

阪神大震災の被災地を歩き、復興の現状を知る催し「こうべｉ（あい）ウォーク」が11日、神戸市長田区周辺で8年ぶりに行われた。資金難などから平成13年に途絶えたが、地元のＮＰＯ法人などが「風化を防ごう」と〝復活〟にこぎつけ、約200人が参加した。

ｉウォークは、震災当時に避難所となった、ＪＲ鷹取駅近くの大国公園（長田区）をスタート。ルートを定めず、20～30人のグループごとに区役所近くの共同住宅「みくら5」までの3～4キロの道のりを、思い思いのコースで約1時間半かけて回った。

参加者らは、震災で焼失して19年に再建され、ボランティア団体の拠点となっている「カトリックたかとり教会」や、震災時の火災の延焼を食い止めたクスノキが残る「御蔵南公園」などを訪ね歩いた。みくら5では、寒空の下を歩いてきた参加者らに、温かい豚汁がふるまわれた。

堺市出身で関西学院大のボランティア団体に所属する3年、多田菜津美さん(20)は「街は一見きれいで被災したとは信じられなかったが、ガイドの方の話を聞くと実感できた。震災体験を風化させないよう伝えていきたい」と話していた。